

# 有機農業

日本でいち早く、  
有機農業を始めた町！

山都町はなんで、有機農業がすごいのか？

山都町は標高200~1700mにあり、涼しい気候なので虫が出にくく、キレイな水とミネラル豊富な土に恵まれています。農業を使わなくても作物が育ちやすく、有機農業に適した環境が整っています。これらのこともあり1970年代から有機農業に取り組んでいる「有機農業の先進地」となりました。また、有機JAS認証（農林水産省の定める有機農業の基準をクリアした証）を持つ農家などが全国で一番多い自治体です。「地域の野菜にもっと付加価値を」という農家さん達の情熱によって、何十年も有機農業が受け継がれてきたのです。

山都町の有機農業とSDGs

有機農業がもっと広まることで農業などで水が汚染されず、環境への負荷を軽減できます。また、「山都町の有機野菜」のおいしさが広まり買う人が増えれば、農家さんの収入の安定にもつながります。そして、昔ながらの農業は、美しい農村の景色を残すことにもつながるのです。有機農業はさまざまな課題の解決に貢献できます。

もっと有機農業に関わる人を増やすため、町では新たに有機農業を始めたい人へ、農地の紹介や技術指導などの支援も積極的に行っています。



## 生産者の声

若者と一緒に  
もっと面白くなる予感

堀 豊生さん  
(山都町有機農業協議会 会長)  
堀 清美さん(豊生さんの奥さん)  
中村 隆志さん(堀さんの義理の息子)

昔は「農業をかせないと農業はできない」というのが常識でした。そんな時代に同じ町の先輩から誘われ、私も約30年前に有機農業に切り替えました。手間はかかりますが、山間にある田畑で農業を使わなければ、下へと流れていく水もキレイなまま。環境も食べるものも安心安全ということの価値は計り知れないと思います。

5年前に娘の夫が後継ぎとして有機農業を始めました。また、町内外から新たに有機農業を始める若者が増え、私たちが町ぐるみで知識・技術を惜しまず提供しています。若手の柔軟なアイデアや情報発信力には学ぶ事も多く、山都町の有機農業はこれからもっと面白くなる予感がします。子ども達には「有機野菜っておいしい」「有機農業ってどうやってやるの?」という素朴な疑問からでもいいので、ぜひ農業に触れてほしいですね。

安心して有機農業を  
始められる、優しい町

榎本 航さん  
(東京から移住し、  
有機農家へと新規就農)

私は東京出身です。自転車で世界一周旅行をした後、日本一周の途中、山都町で有機農家の移住者の先輩と知り合いました。そこで食べたニンジンのおいしさに驚きました。「この50年で、日本で採れる野菜の栄養価が落ちている」「土を育てることから始める有機農業で、このようにおいしく栄養いっぱい野菜を作る」という話から、山都町の有機農業の素晴らしさに衝撃を受け、第二の人生を山都町の有機農家として過ごすために移住してきました。山都町では、多くの農家の先輩が何でも教えてくれ、移住者の先輩も多いので交流する機会も多く、みんなとても優しいです。そして、キレイな水源が近く土も豊かで環境もいい。誰でも有機農業を始めやすい、魅力的な町だと思います。



味が濃くて  
驚くほどおいしい！



# 食育



地元の野菜を食べるだけで  
SDGsになる!?

山都町では、町内の小中学生に有機野菜の魅力やSDGsとのつながりを知ってもらうため、4つの取り組みを始めています。山都町の若手有機農家などによる講話。原料の大豆から味噌をつくる体験。山都町で採れる有機野菜による給食のメニュー考案。そして有機米や有機野菜を使った給食の提供です。

有機農業が環境に優しいことはもちろん、地元で採れた食べ物を買うことで、輸送にかかるエネルギーを減らすことができ、地元の活性化にもつながられます。なにより、山都町の人々が何気なく口にしている野菜が、実はとてもおいしく価値のある食べ物であることを知るきっかけになっています。



(上)給食に山都町産の有機米を使っています (下)味噌づくり体験

# ジビエ



やっかいものが、資源になる!

近年、シカやイノシシなどが田畑を荒らす被害が増えており、山都町でも年間5000頭ものシカやイノシシが捕獲、埋設されていました。そこで、捕獲したシカやイノシシを「ジビエ肉」として活かすために、2017年に「ジビエ工房やまと」をオープンしました。

ここでは町内で捕獲されたシカやイノシシを買い取り、食肉用に加工して、全国に向けて販売しています。東京や福岡など都会のレストランなどでは「ジビエ肉」が人気で、ニーズは年々高くなっています。これまで廃棄していたものが資源となり、町に新たな産業を生み出し、そして処分のために埋めずに済むことで、野山がクリーンになります。また、町に住む子ども達にとっては「命をいただく」ことに触れる機会にもなっています。



(上)「ジビエ工房やまと」 (下)臭みが出ないよう新鮮なうちに加工された鹿、猪肉

# エコライフ



自然に寄り添う暮らし、  
身近なことから



太陽の光も  
活かします！

自然の力を引き出す有機農業に長く取り組む山都町。エネルギーの分野でも、太陽光の活用など「自然に寄り添う」という考え方がずっと町民に根付いています。そんな町民の取り組みを支援するため、町では住宅用の太陽光発電システム、太陽熱利用システム設置への補助金事業を続けています。

さらに、「生ゴミ処理機設置事業」は、2006年から補助金で支援を行っています。電気式、もしくは庭に設置するコンポストで、生ゴミを栄養豊富な堆肥に変えることができるこの設備。家庭菜園や畑などで活用できるのはもちろん、家庭から出るゴミが減ることで焼却処分するための燃料は減り、二酸化炭素の排出量の抑制も期待できます。

また、薪・ペレットストーブを設置する家にも補助金でサポートしています。薪ストーブは二酸化炭素を吸い込んだ樹木を燃料にするため、カーボンニュートラル(二酸化炭素の排出と吸収を同量にする)につながります。山林地帯が7割を占める山都町では、間伐材が多く出るため、それを活用することもできます。

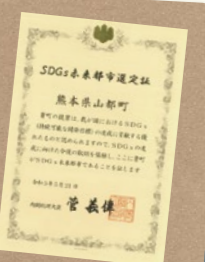
お家で身近な所から、エコやカーボンニュートラルを意識した生活を送ることで、持続可能なまちづくりにつながっていきます。

(右)エコだけでなく、オシャレで温かい薪ストーブ (下)庭に設置できるコンポスト。この中に生ゴミを入れれば、堆肥ができます



山都町は「SDGs未来都市」

山都町は自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を行う都市として「SDGs未来都市」に選定され、併せて先進的な取組として「自治体SDGsモデル事業」(全国10都市)に選定されました。「有機農業を核とした有機的な繋がりが広がる町の実現」に向けて、多角的に取り組んでいきます。



(上)堀さんが有機栽培で育てた小松菜の収穫 (右)榎本さんから、土と菌と農業の説明

